

# ワケ カタチには理由がある(78)

Shape follows Function & Taste

## ～九州飛行機局地戦闘機震電(ジ7W1)



[XP-55 との比較→]

本機、震電は、日本海軍が開発したエンテ型の局地戦闘機です。戦争末期、1945年8月3日に試作機が初飛行しました。この機体は、フライトエンジニアたる鶴野正敬大尉が開発を主導したことで異色ですが、その胴体形状は側面から見て綺麗な紡錘形を持っており、この機体は模型を手に持っているような角度から眺めると楽しいです。但し、単発の、プッシャー式エンテ型機は、5年も前にXP-55で米国陸軍がトライして諦めているように、実用的に成功する可能性は極めて低かったでしょう。エンテ型の特徴として、機首のカナードに揚力(リフト)を分散させるため、戦闘機としての制御には困難性が伴ったでしょうし、また、実際、試験飛行時はフル出力の飛行でなかったにもかかわらず、機体の傾きが直らなかつた、と報告がなされ、大型プロペラの回転トルクは飛行性能に悪影響を与えました。鶴野大尉本人が、自ら、「天然の鳥類はすべて通常形式の飛行機と同じ形態であり、エンテ型の鳥または昆虫の類は自然界には存在しない。それには理由があるはずで、エンテには、鶴野には分らない何か重大な欠陥があるはずである」という、周囲から受けた否定的意見を記しており（『旧版・世界の傑作機 No.102 震電』への本人寄稿）、個人的にはなかなか深い言葉だと感じました。

### 【模型について】

ハセガワ(Hasegawa)製 1/72 のインジェクションキットです。発売されてずいぶんと経ちますが、いまでも市場での現役です。とてもよくできたキットで、ジェット化したifバージョンも発売されており、カタチを楽しむには最適のキットです。(中川裕幸 2023年2月)